

# 道徳的判断力を育む手立てと道徳的環境との関連に関する研究

芸西村立芸西中学校 教諭 中村 大助

高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻 指導教員 森 有希

## 【研究の概要】

本研究の目的は、道徳的判断力を育む道徳授業と実際の生活の諸問題に関わる話合いや活動を関連付けた学習を実践・検証することによって、道徳に関わる意識に基づく道徳的環境を醸成していくための教育活動の在り方を明らかにすることである。実践においては道徳科を要とした単元を構成し、「問題意識の持続」と「道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える」ための工夫を行うとともに、道徳授業や実践活動に関わる生徒の意識を捉えて検証を行った。その結果、単元の設定により問題意識を持続させ、道徳的实践につながる学習を行うことで、生徒の思考の発達を促し、実践意欲を高め、道徳的環境を支える道徳意識が醸成されると考えられた。特に、道徳科においては、経験の想起や内省、役割取得、他者理解を重視した学習を行うことによって、道徳的な判断ができる思考力をより高められるということが示唆された。

【キーワード】 道徳的判断力 道徳的環境 単元構成

## 1 研究課題設定の理由

よりよく生きるための行動を選択できる道徳性を養うためには、道徳的ジレンマによる討論を通して、道徳的判断力を高めていくことが重要であると道徳性認知発達理論の提唱者であるローレンス・コールバーグは述べている。

また、コールバーグは、「授業のなかで行われる架空の道徳的ジレンマの討論以上に、あるいはそれと同じ位、実際の道徳的環境によって道徳性発達が規定されている」として、学校に「公正な共同社会」(just community)を構成し、道徳的環境を構築することの重要性をも述べている。

つまり、道徳性を養うためには、道徳的判断力に着目し、討論を生かした授業を行っていくとともに、道徳教育の中で、道徳的実践意欲の高まりを生むような手立てを行い、道徳的環境を構築していくことが重要であると考えられる。そうしたことから、本研究課題を設定し、その実践と検証を行うこととした。

## 2 研究の目的

道徳的判断力を育む道徳授業と実際の生活の諸問題に関わる話合いや活動とを関連付けた学習を実践・検証することによって、道徳に関わる意識に基づく道徳的環境を醸成していくための教育活動の在り方を明らかにすることを研究の目的とする。

## 3 理論的枠組み・研究の方法論

本研究では、ローレンス・コールバーグが提唱した道徳性認知発達理論に基づく討論プログラム及び公正な共同社会(ジャスト・コミュニティ)としての民主的な集団を形成するためのコミュニティ・ミーティングの手法を参考にしながら、現在の学習指導要領に即した実践研究を行う。実践においては、道徳的判断力を育む道徳授業と実際の生活の諸問題に関わる話合いや活動とを関連付けた単元を構成し、「問題意識の持続」と「道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える」ための工夫を行う。

本研究における「道徳的判断力を育む道徳授業」とは、「役割取得しながら多様な考えに気付き、葛藤や内省とともに考えを深め、よりよい生き方につながる判断を行える思考力を育む」道徳授業と捉えて実践を行う。

また、道徳と生活の諸問題についての話し合いや活動とを関連付けるために、道徳科を要として特別活動や総合的な学習の時間を組み合わせた単元を構成する。

なお、本研究においては、道徳的環境について、コールバーグ理論を参考にして「公正・公平な立場に関わり合い、集団における責任も自覚しつつ、個人を大切にし合える民主的な雰囲気」と定義する。

#### 4 実践

R7年度は、X中学校3年生（21名）を対象に、道徳科及び特別活動は筆者が授業者となり、総合的な学習の時間は学級担任がT1となって以下の表1・2のとおり授業を行った。

表1：1学期の実践

回	教材【内容項目】	主な指導の工夫
1	夢へのステップー大谷翔平【希望と勇気、克己と強い意志】	生徒による問いの設定や自己の生き方への問いかけ
2	小浜のさば缶、宇宙へ行く【希望と勇気、克己と強い意志】	
3	挨拶のちから【礼儀】	他者参照の機会の設定
4	リアルとネットの不思議【自主、自律、自由と責任】	日常生活との関連における話し合い活動
5	ピヨ子【自主、自律、自由と責任】	
6	単元Ⅰ 二通の手紙【遵法精神、公德心】	道徳的葛藤についての討論
7		ベビーカー論争【遵法精神、公德心】
8		「自転車の乗り方問題について」（特別活動）
		現実問題を扱った話し合い（権利と義務の対立を巡って）

表2：2学期の実践

回	教材【内容項目】	主な指導の工夫
9	月明かりで見送った夜汽車【思いやり、感謝】	他者理解への意識づけ
10	単元Ⅱ 千年先のふるさとへー宮城県女川町 【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】	単元テーマの設定・共有による問題意識の持続
11		ゲストティーチャーとの交流による役割取得、他者理解
12		経験の想起、他地域の取組動画による役割取得、他者理解
13	ゼロ・ウェイストの町ー徳島県上勝町 【社会参画、公共の精神】	道徳的葛藤についての討論 内省と意識の明確化
14	小さな手鏡【自主、自律、自由と責任】	地域活動の経験の想起から責任の自覚、実践への架橋
15	「自分たちが卒業までに取組むべき地域の課題は何か決めよう」（特別活動）	課題の設定
16	「地域の課題に対して自分たちが卒業までに取組む具体的なことを決めよう」（特別活動）	対策の具体化
17	「地域の課題に対して自分たちが卒業までに取組むことの詳細な計画を立て、地域への思いを振り返ろう」（特別活動）	明確な計画づくり 地域への思いの振り返り ゲストティーチャーとの意見交流

#### <単元Ⅱの実践>

2学期にはカリキュラム・マネジメントの側面を意識しながら、道徳科と特別活動（学級活動）及び総合的な学習の時間を関連付けた単元Ⅱ「郷土を大切に、地域に貢献するために必要なことを考え、実行しよう」を実践した。単元の設定では、地域貢献活動を行う総合的な学習の時間「村に『ありがとう』の気持ちを形にして伝えよう」と道徳科「千年先のふるさとへー宮城県女川町」【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】と道徳科「ゼロ・ウェイストの町ー徳島県上勝町」【社会参画、公共の精神】、実践への架橋の役割も持つ道徳科「小さな手鏡」【自主、自律、自

由と責任】，そして，「自分たちが卒業までに取り組むべき地域の課題」の決定と計画に関する特別活動（3時間）によって単元を構成した。単元においては，道徳的環境の醸成に関わる意識を高めることを目指し，「問題意識の持続」と「道徳的価値に関する課題について，自分との関わりで多面的・多角的に考える」ための工夫を行った。その中で単元の中核となる「ゼロ・ウェイストの町ー徳島県上勝町」の道徳授業を表3のように展開した。

表3：教材名「ゼロ・ウェイストの町ー徳島県上勝町」の道徳科実践概要

《1/2時間目》主題名「地域に貢献する思い」【社会参画，公共の精神】 ねらい：ゼロ・ウェイストを推進する上勝町の目指す地域やこれからの村の未来を守る宣言について考えることを通して，社会における役割と責任を果たすことの大切さに気付き，よりよい地域社会の実現を目指す道徳的実践意欲を培う。	
〈学習活動〉（◎中心発問，◆問い返し）	
導入	○総合的な学習の時間の活動を振り返り，テーマ「村の未来を守る宣言を何にすればよいだろう」を設定する。
展開	○事前に読んだ教材の内容を確認し，自分たちが考えた質問から作成された上勝町への取材動画を視聴する。 ○教材や取材動画から上勝町の目指す地域について考える。 ◆ゼロ・ウェイストの取組が全国に広がらない理由を考える。 ○村のごみの取扱いに関する動画を視聴し，村と上勝町を比較する。 ◎村の未来を守る宣言を何にすればよいか考える。
終末	○村の今後を考えたときに，ゼロ・ウェイストの考えに共感するかその他の考えがあるかについてアンケートで答える。
《2/2時間目》主題名「地域のためにできること」【社会参画，公共の精神】 ねらい：よりよい村の在り方や地域のために自分にできることについて考えることを通して，地域の一員としての自覚を深め，よりよい地域社会の実現を目指して自分たちにできることを実践していこうとする道徳的実践意欲を培う。	
〈学習活動〉（◎中心発問，◆問い返し）	
導入	○前時の村の未来を守る宣言や村と上勝町のごみの取扱い状況を比較して，テーマ「村の未来を守る宣言に向けて自分にできることは何か」を設定する。
展開	○ごみの取扱いについて，これからの村に必要なのは，「ゼロ・ウェイストの考えか，別の考えか」について，選択した立場から討論する。 ◎村の未来を守る宣言に向けて，自分にできることは何かを考える。 ◆村の未来を守るために，自分はどんな思いを持って関わっていくのかを考える。
終末	○授業を振り返る。

## 5 検証方法

①道徳の授業後に毎回，表4にある道徳授業アンケート（6項目，5件法，自己評価）を実施し，道徳授業に対する生徒の受け止めに捉える。

②単元の終わりに，表5にある学級活動アンケート（4項目，5件法，自己評価）を実施し，学級活動に対する生徒の受け止めに捉える。

③道徳科と学級活動のワークシートや振り返りの記述から生徒の学習状況を把握する。

表4：道徳授業アンケートの項目

	質問	観点
1	テーマに関して，その立場に立って考えることができた。	役割取得
2	テーマに関して，自分とは異なる考えや新たな考えに気付くことができた。	他者理解
3	テーマに関して，自分の行動や考え方を見直すことができた。	自己省察
4	テーマに関して，どうすることがよいことなのか自分なりの考えと理由を持つことができた。	判断・理由付け
5	テーマに関して，自分なりに考えを深めることができた。	思考の深まり
6	これからの生活に生かそうと思うことがあった。	生活に生かす

表5：学級活動アンケートの項目

	質問	観点
1	議題に対して，自分とは異なる考えや新たな考えに気付くことができた。	気付き
2	議題に対して，自分の行動や考え方を見直すことができた。	内省
3	議題の決定に対して，納得している。	納得
4	議題で決まったことを，実行しようと思う意欲がある。	実行意欲

④7月・12月に表6の道徳意識調査（高知県教育委員会作成より8項目、4件法、自己評価）を実施し、道徳に関わる生徒の意識を把握する。

## 6 成果

### (1) 実践の結果

#### ①道徳授業アンケート

アンケート結果は、図1のとおり全ての項目で4.2を超えており、生徒の受け止めが全体的に高かった。また、単元Ⅰ・Ⅱでは、他の道徳の授業と比べて生徒の受け止めが高くなっている様子も見られた。

また、同一内容項目【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】に関して、単独で行った道徳授業（教材「相馬野馬追の季節」R6年実施）と単元Ⅱの一部として行った道徳授業（教材「千年先のふるさとへー宮城県女川町」R7年実施）について、道徳授業アンケートから生徒の意識を捉えてみた。すると、図2のとおり全ての項目において単元Ⅱで行った道徳授業の方が高くなっていた。

#### ②単元Ⅱ学級活動アンケート

表5の項目についてのアンケートの結果を数値化（1～5）したものは、表7のとおり、全ての項目が4.7を上回っていた。

#### ③生徒の学習状況

郷土愛や地域貢献に関わる道徳科や学級活動での振り返りの記述から抽出生徒の意識の変化を捉えたものが表8である。令和6年度の単独道徳では、地域への思いを知識として理解している様子だったが、令和7年度の単元Ⅱの学習では、実際に被災した人の話から「自分だったら」と当事者意識を持つようになり、行動することの難しさも捉えながらも「もっと行動したい」という意識が

表6：道徳意識調査の項目

1	道徳の勉強は、好きだ。
2	道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと（生き方）についてよく考えている。
3	自分には、よいところがあると思う。
4	将来の夢や目標をもっている。
5	人が困っているときは、進んで助けている。
6	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。
7	学校の規則を守っている。
8	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

図1：道徳授業アンケートの結果（n=21，範囲1～5）

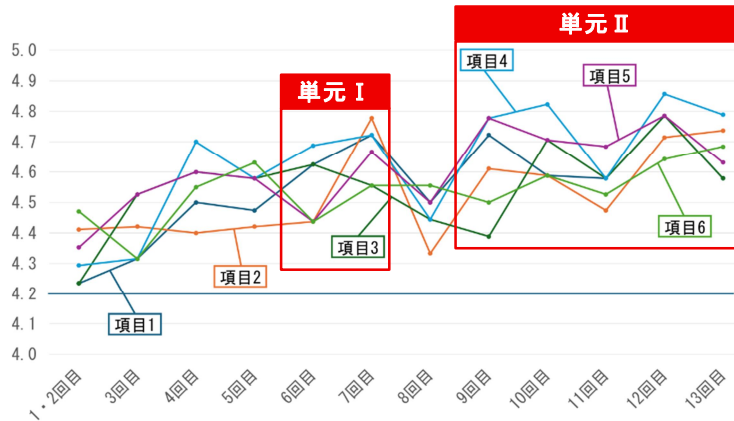


図2：単独道徳と単元道徳のアンケート結果の比較（n=15）

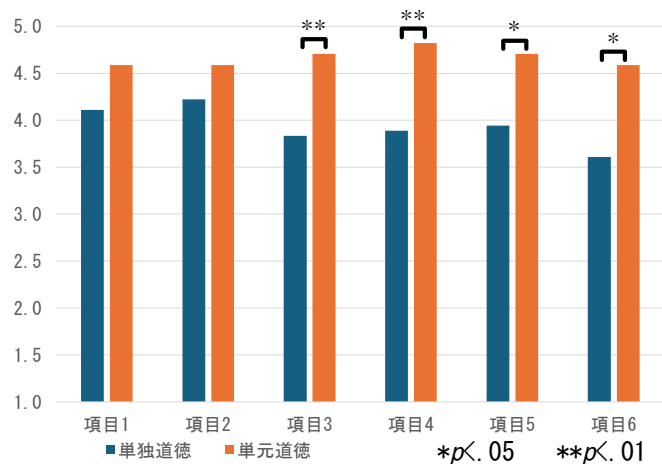


表7：単元Ⅱ学級活動アンケートの結果（n=19）

項目	1. 気付き	2. 内省	3. 納得	4. 実行意欲
<i>M</i>	4.95	4.89	4.89	4.74
<i>SD</i>	0.22	0.31	0.31	0.44

芽生え、最終的には、「自分たちがやるしかない」と記述するなど実践意欲につながる意識が見られた。

表 8：生徒の記述内容の変化

R6 年度	R7 年度 単元Ⅱの学習			
道徳「相馬野馬追の季節」	道徳「千年先のふるさとへー宮城県女川町」	道徳「ゼロ・ウェイストの町ー徳島県上勝町」	特別活動	単元Ⅱの振り返り
私が思った伝統はなにがあってもその形のまま受け継がれてきたものだと思ってたけど、今日の話聞いてかなり悲惨な状況だったりしたら少し形が変わってしまっても欠かさず受け継がれてきたんだと学ぶことができました。	学習前の自分との考えの変化は、はじめの方は、自分は物理的なことや自分たちだったらこうするというふうを考えていたけど、実際に被災した人の意見を聞くと、 <u>石碑を建てるプロジェクトに対する思いは誰よりも強いということを学びました。</u>	村の未来をより詳しく見越していくことができず。口だけだったら課題だったりよさだったり何でも言えるけど、 <u>行動に移そうとするとなかなか自分から行動していくことができないと思いま</u> した。村では当たり前のことでも <u>未来のことを考えて今までよりもっと行動したい</u> と思います。	私たち中学生が考えていることを、教育長の方や地域の方からの言葉をもとにしてより具体的なものにすることができました。これからは、 <u>より村に対する私達の思いや、自分のまわりの地域の方にも村の魅力を知らせていきたい</u> と思いました。	中学生と、地域の人に関わることができる機会が、 <u>「自分たちがやるしかないな」、「自分たちの活動で少しでも村の未来が明るくなればいいな」という意欲がわいてきた。</u>

#### ④道徳意識調査

表 6 の項目について、アンケートの結果を数値化(1~4)したものは、図 3 のとおり。R6 年度と R7 年度の同時期(12 月)を比較すると全項目が上昇しており、8 項目のうち 6 項目に有意差も見られた。

#### (2) 考察

##### ①道徳科の学習と道徳的環境との関連

図 1 の道徳授業アンケートの数値が全て 4.2 を超えていたことから、道徳科で、道徳的葛藤についての討論などで役割取得しながら多様な考えに気付く、内省とともに考えを深め、よりよい生き方につながる判断を行える思考力を一定程度高めてきたと考えている。

また、本研究の目的である「道徳的環境」を支える意識として特に関わりのある「道徳意識調査」の項目 5~8 は、図 3 のように全て 3.5 を超え、R6 年度よりも上昇していた。

さらに、道徳意識調査の項目 2 (道徳でよく考える)と項目 5 (人が困っているときは、進んで助けている)との相関係数は  $r=.592$ 、項目 2 と項目 6 (いじめはいけないうことだと思う)との相関係数は  $r=.793$  とそれぞれに正の相関があり、道徳授業でよく考えることは、「人を助ける」や「いじめはいけないう」といった道徳的環境を支える意識に関連があると捉えられた。

こうしたことから、本実践において行った道徳的判断力を育む道徳授業は道徳的環境の醸成に幾分か関連を持っているものと捉えられた。

図 3：道徳意識調査の結果 (n=18, 範囲 1~4)

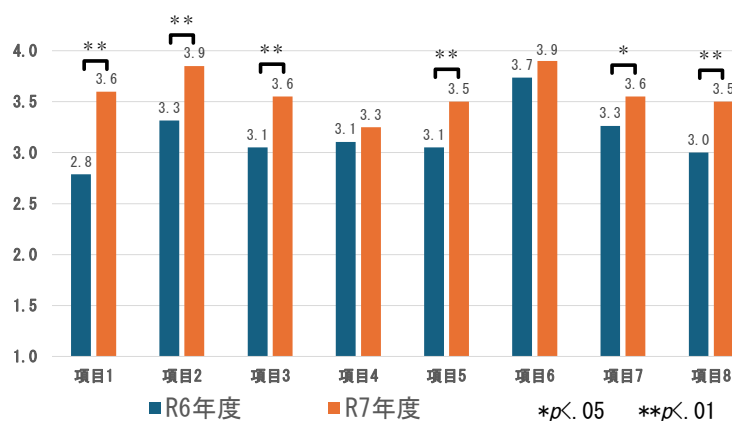


表 9：道徳意識調査項目 2 と 5・6 の相関分析結果 (n=20)

	項目 2	項目 5	項目 6
項目 2 (道徳でよく考える)	—		
項目 5 (人を助ける)	.592**	—	
項目 6 (いじめはいけないうことだと思う)	.793**	.282	—
M	3.850	3.500	3.900
SD	.357	.592	.300

注. \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$

## ②道徳科を要とした単元学習

図2の全ての項目において、単独での道徳授業より単元Ⅱの道徳授業の方の意識が高くなっていたことから、単元による道徳授業は、道徳的な判断を行える思考力や実践意欲の向上により寄与できると考えられた。

また、単元Ⅱの学級活動アンケートの（実行意欲）と道徳意識調査の（地域貢献の意識）の相関分析を行ったところ、表10のように相関係数は $r=.559$ と正の相関があった。このことから、地域をテーマとして行った単元における特別活動での実行意欲と地域社会に貢献しようとする意識には関連があると思われた。

表10：学級活動アンケート（実行意欲）と道徳意識調査（地域貢献の意識）の相関分析の結果（ $n=18$ ）

	1	2
1. 実行意欲	—	
2. 地域貢献の意識	.559*	—
<i>M</i>	4.737	3.500
<i>SD</i>	.440	.742

注. \* $p<.05$

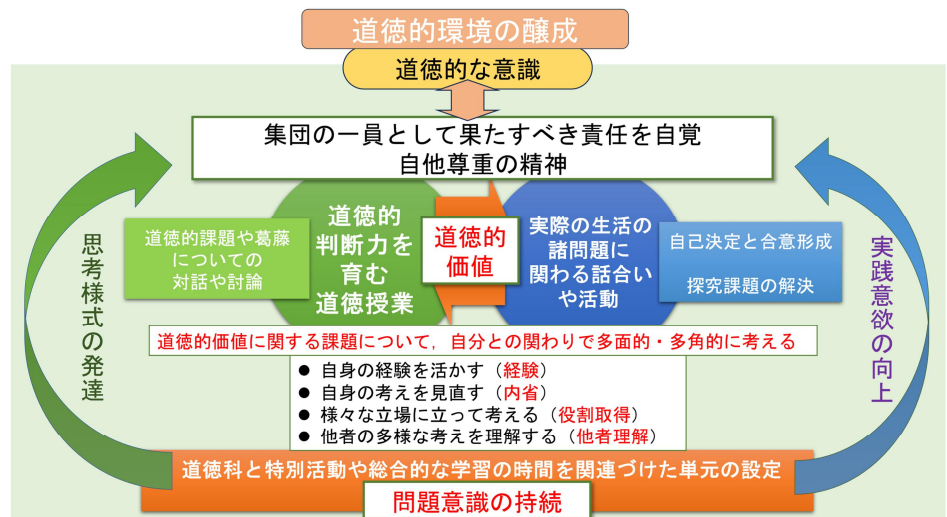
加えて、表8の生徒の記述の変化から、単独道徳では教材の内容を自分の立場から表面的な視点で捉えていたが、単元での学習を通して、地域の未来を担う存在としての実践意欲を醸成していることがうかがえた。道徳科で、実際に被災した人の思いに役割取得したり、総合的な学習の時間の経験を想起したり、討論や話し合い活動から他者理解を行って自分の考えや行動を内省したり、さらには、特別活動で、地域における自分の役割を意識することや自分の考えを具体的にすることで、行動することの難しさとその必要性を再認識したのではないかと考えている。

以上のことから、道徳科を要とした単元学習によって、集団の一員として果たすべき責任を自覚し、自他尊重の精神を高め、道徳的環境の醸成に寄与することができたと考察している。

## 7 まとめ

以上のことから、図4に示すように、道徳的判断力を育む道徳授業と実際の生活の諸問題に関わる話し合いや活動を道徳的価値によってつなげるためには、「道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える」学習として、役割取得や他者理解をしたり、経験を想起し内省を深めたりする学習を道徳科において行うことが

図4：本研究のまとめ



効果的であることが考えられる。そして、道徳科と特別活動や総合的な学習の時間との関連を図った単元の設定により問題意識を持続させ、道徳的実践につながる学習を行うことで、生徒の思考の発達を促し、実践意欲を高め、集団の一員として果たすべき責任の自覚や自他尊重の精神などの道徳的環境を支える道徳意識が醸成されると考えられた。

以上の研究成果から、道徳的環境を醸成する教育活動の在り方として、「問題意識の持続を図る単元構成」、そして、「道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える学習」としての役割取得や他者理解、経験の想起、内省についての学習活動等を以下に示す。

①問題意識の持続を図る単元構成

道徳科における学びを道徳的環境に資する道徳意識につなげるためには、道徳科のみで完結した指導にとどまるのではなく、図5のように、カリキュラム・マネジメントの側面を意識しながら、単元を構成することが重要である。

そして、道徳科を要とした単元の中で、道徳的価値に関わって生徒の「問題意識の持続」を図る学習を成立させるためには、図6のように、道徳科と特別活動、総合的な学習の時間のそれぞれの学習や相互の関係を以下のように捉えておくことが大切である。

《道徳科》

特別活動や総合的な学習の時間での体験や実践を想起しながら、道徳科では、道徳的課題や葛藤について対話や討論を通して学習を行う。特別活動や総合的な学習の時間で扱う課題と関連するテーマで道徳科の授業が展開されることによって、役割取得を通して多様な考えに気付いたり、葛藤や内省を伴いながら考えを深めたりすることが促進され、よりよい生き方につながる判断を行うための思考力を育むことができる。

また、道徳科での学習によって生まれた問いや葛藤を問題意識として深め、広げていく場として、特別活動や総合的な学習の時間を位置付けることもできる。

《特別活動》

実際の生活上の諸問題に関わる話合いや活動を通して自己決定や合意形成を図ることで、道徳科で考えた価値を、学級や学校生活の中でどのように生かすのかを実践的に検討する。その結果、問題意識に関わって、集団として道徳的価値に基づく実践の吟味が行われ、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、自己実現を図ろうとする態度を養うことができる。

《総合的な学習の時間》

探究課題を解決するために、探究的な学習に主体的・協働的に取組み、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。その中で、道徳科や特別活動で扱った問題意識との関わりで考えることにより、道徳的価値の視点から活動による体験や経験を捉え直したり、特別活動での実践を再考したりすることにつながる。

図5：単元構成の考え方（例）

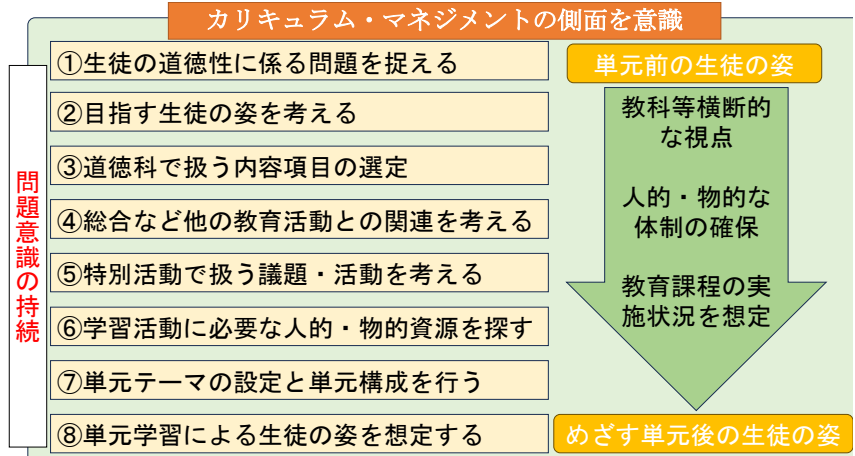
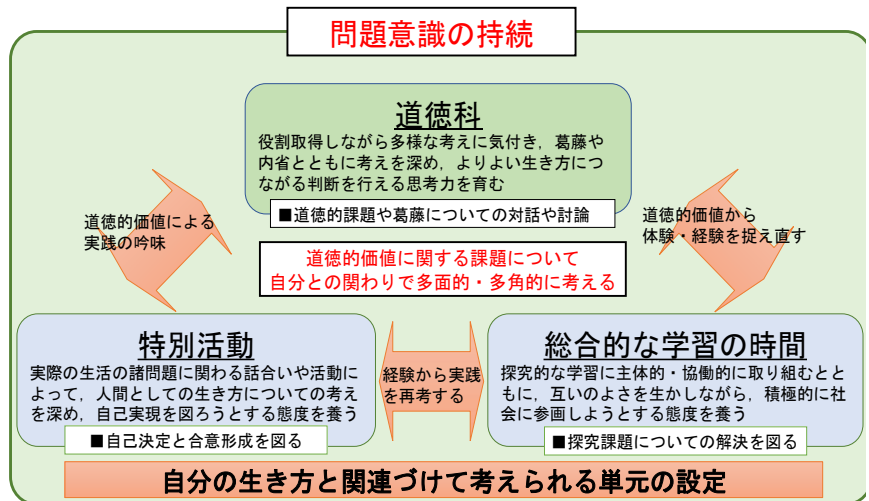


図6：道徳科と他教科等との相互の関係



②道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える学習

「道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える学習」を行うためには、カリキュラム・マネジメントによる単元設定により、教科等での学習や自己の生活経験、行事などの体験活動といった、生徒にとっての現実を生かしながら問題意識の持続を図り、道徳的問題の探究が行われることが肝要である。その過程において、道徳科では、経験の想起や内省、役割取得、他者理解を促す学習活動が関わり合って展開されることが重要となる。そうした学習の概要をまとめたものが図7であり、以下に示すものがその学習活動の例である。

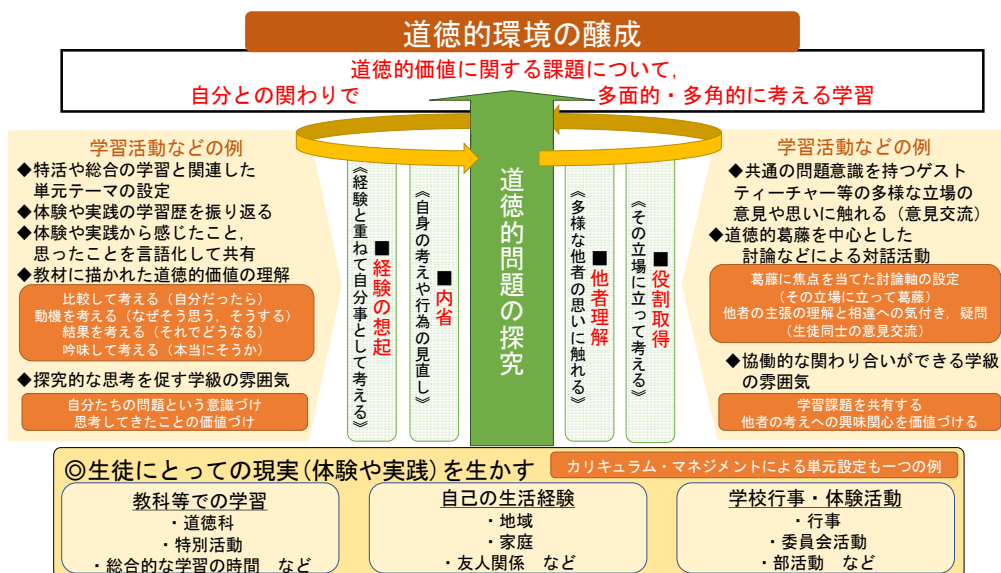
《経験の想起や内省などの自分との関わりで考える学習活動の例》

- ・単元学習の始めに、特別活動や総合的な学習の時間と関連した単元テーマを設定する。
- ・道徳的価値に関わって、体験や実践などの学習歴を振り返る。
- ・体験や実践から感じたことや思ったことを言語化して他者と共有する。
- ・体験や実践を関連させながら、「自分だったら」と比較することや「なぜそう思うのか」と動機を考えること、「それでどうなるか」と結果を考えること、「本当にそうか」と吟味して考えることを通して、教材に描かれた道徳的価値を理解する。
- ・学級での体験や実践と関連付けることで、自分たちの集団の問題であるという意識づけを行い、思考の過程を価値づけながら、探究的な思考を促す学級の雰囲気をつくる。

《他者理解や役割取得などの多面的・多角的に考える学習活動の例》

- ・共通の問題意識を持ったゲストティーチャー等を招聘し、多様な立場の意見や思いに触れるための意見交流を行う。
- ・道徳的葛藤に焦点を当てた討論軸を設定しその立場に立って葛藤を経験したり、生徒同士の意見交流から他者の主張の理解と相違への気付きや疑問を深めたりして討論などの対話活動を行う。
- ・学級で学習課題を共有することや他者の考えへの興味関心を価値づけることで、協働的な関わり合いができる学級の雰囲気をつくる。

図7：道徳的価値に関する課題について、自分との関わりで多面的・多角的に考える学習



《参考文献》

- ・荒木寿友 (2001) 「L. コールバーグの道徳論と共同体-ジャスト・コミュニティの分析を中心に」『京都大学大学院教育学研究科紀要 47』京都大学大学院教育学研究科
- ・荒木寿友 (2013) 『学校における対話とコミュニティの形成-コールバーグのジャスト・コミュニティ実践』三省堂
- ・永野重史編 (1985) 『道徳性の発達と教育-コールバーグ理論の展開-』新曜社
- ・櫻井育夫 (1997) 『道徳的判断力をどう高めるか-コールバーグ理論における道徳教育の展開-』北大路書房